

## 1 はじめに

児童は、幼いころから、身近なものや人に働きかけ、働きかけられて学び、学びながら成長すると言われる。幼い子どもは、身近にあるものに、興味をもち、触ったり口に運んだりしながら、ものとのかかわりを深めていく。さらに、成長すると、手にした鉛筆などで、紙などに線を引いたり、様々な形をつくり、やがてその形に意味を付け、自分の願いや思いを表す楽しさや喜びを感じるようになる。同じように、砂を材料にして形をつくり、それを「山」と名付けたり、積み木を組んで「家」と呼んだりする。そこには、子どもたちの表現することへの愛着や形づくることへの関心などを見ることができる。



児童が、このような活動に魅力を感じるのは、材料の形や色などの特徴から思い付き、それをもとに、次から次へと活動を続け、自分の思いを表し、可能性を試し、ものなどの存在の感じを楽しむことによるものと考えられる。そのようなことは、例えば紙の上に描いた後の空白に心惹かれ、何かを感じ、そこに線や形を試しにかき加える様子などからもうかがうことができる。このような活動を通して、児童は子どもらしい想像力を働かせ、楽しい形や色の感じやその組合せに気付き、思いにあった表し方を見付け、持てる力を思いのままに働かせながら、自分らしさをはぐくんでいる。

このような児童は、自分の思いや願いを絵にしたり、形に表したりする人としての根源的な表現の欲求をもっている。この欲求を満足させ、表現の喜びを味わうようにすることが、図画工作科の重要なねらいである。このような欲求に基づいた造形活動は、快いもの、美しいものをつくりだすことを目指すことになる。

『小学校学習指導要領解説 図画工作編』より抜粋

## 2 スケッチ大会における指導のポイント

### (1) 描きたいところ(もの)を決める。

- ・ 今までと違った方向から見る。・・・新たな発見  
( ななめから , 下から見上げて , 上から等 )
- ・ 対象をとらえるために適した位置や距離を見付ける。

### (2) 下絵(形をとる)のための描材を選ぶ。

- ・ フェルトペン , 竹ペン , 割りばしペン , パス , コンテ等
- ・ 少しぐらい間違えても描き直さない。

### (3) 描こうとするものをよく見る。

- ・ いろいろな線がある。( 太い線 , 細い線 , 強い線 , 切れている線等 )

### (4) 友達の真似をしない。

- ・ 見たまま , 感じたまま , 思ったまま ( 自分にしか描けない絵 )

### (5) 描こうとするものを画面に大きくどっしりと描く。

- ・ 絵には中心になるものがある。
- ・ 人物には必ず動きがある。
- ・ 画面の中に絵を引き立てるものがある。

### (6) 色を決める。

- ・ 中心になる色
- ・ 色が濁らないように
- ・ 筆をまめに洗う。
- ・ 混ぜる色 ( 3色ぐらいまで )

### (7) ゆっくり鑑賞する。

- ・ 表現の過程でも勿論であるが , できあがってからもゆっくり鑑賞し , 自分や友だちのよさ , 工夫したところなどを自然に見付ける場と時間を確保する。